

長寿命化改修工事の概要について

区立学校施設は、半数以上が築 50 年を経過し老朽化が進んでいるため、今後、改修・改築による施設の更新が必要となっています。そこで、区では「練馬区学校施設管理基本計画」を定め、改修・改築による更新が必要な施設について、コンクリートの圧縮強度、中性化状況などに基づき、長寿命化の適否を判断しています。長寿命化に適する施設に選定された場合は、下記のとおり、原則として築 60 年を目途に長寿命化改修工事を実施します。

記

1 長寿命化の目的

長寿命化改修工事によって「児童生徒の安全確保」・「良好な教育環境の維持」・「社会情勢の変化に合わせた改修」を図り、目標使用年数を築 80 年とすることを目的としています。

2 長寿命化事業の流れ

設計期間である基本設計から実施設計までで 2 年程度、工事の実施に 2 年程度の期間が必要となります。なお改築同様、施設の立地状況や規模等によって、より長い期間を要する場合があります。工事期間中は、校庭に仮設校舎を建設し、引っ越しを複数回に分けて行いながら校舎の改修を少しずつ進めていきます。

3 長寿命化の改修方針

学校の長寿命化を行う際には、過去に実施した改修内容を確認し耐用年数が経過しているものを中心に改修項目を検討します。その上で、建物の現況を調査し、状態が悪いものは優先的に改修項目として選定します。その際、過去に更新をしており、耐用年数が経過していなくても状態が良くないものは改修対象として検討します。